

事務事業評価シート(事後評価)

事務事業名	敬老祝金支給事業			担当課名	健康福祉課			
政策名	健やかで優しい福祉のまち			担当係名	高齢福祉係			
施策名	高齢者施策の充実			課長等名	笠間憲二			
施策細項目名	生きがいつくり			担当者名	薄 友則			
予算科目	会計	一般	款	民生費	項	社会福祉費	目	老人福祉費
事業期間	<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返	開始年度	平成	17	年度から			
	<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度	開始年度			年度から			年度まで
法令根拠、条例等	会津美里町敬老祝金支給条例							
事務事業の概要	事務事業の内容		本町に居住する高齢者に対し、長寿を祝福するため節目の年齢を迎える方に敬老祝金を支給する。 80歳(傘寿) - 5,000円 88歳(米寿) - 10,000円 90歳(卒寿) - 20,000円 99歳(白寿) - 30,000円 100歳(賀寿) - 50,000円					
	業務の内容 (職員が行っている内容)		該当者の調査、口座届出提出依頼、支払い案内					
	事業費の費目		報償費(5,655千円)					
	これまで行ってきた改革改善内容							

1、現状把握の部(DO)

(1)事務事業の目的と指標

手段(主な活動)

毎月住民基本台帳より抽出し、祝金を口座に振り込む。
80歳-351人、88歳-131人、90歳-88人、99歳-11人、100歳-10人
計591人に支給

対象(誰、何を)

基準日(4月1日)において1年以上町内に住所を有し、当該年度中に下記の年齢に達する高齢者
80歳(傘寿)、88歳(米寿)、90歳(卒寿)、99歳(白寿)、100歳(賀寿)

意図(対象をどのような状態にしたいのか)

長寿者に祝金を支給することにより、長寿を祝福するとともに町民の敬老意識の高揚を図る。

結果(どんな結果に結びついているのか)

いつまでも住み慣れた地域で、生きがいをもって安心した生活を送っても

活動指標(活動を表す指標)		単位
ア	対象者数	人
イ	支給人数	人
ウ		
対象指標(対象の大きさを表す指標)		単位
ア	75歳以上の高齢者数	人
イ		
ウ		
成果指標(意図の達成度を表す指標)		単位
ア	75歳以上の高齢者に占める支給者割合	%
イ		
ウ		

(2)指標の推移

区分	単位	18年度(実績)	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(目標)
活動指標	ア 人	513	528	591	658	
	イ 人	513	528	591	658	
	ウ					
対象指標	ア 人	4144	4262	4336	4336	
	イ					
	ウ					
成果指標	ア %	12.4	12.4	13.6	15.2	
	イ					
	ウ					

(3)総事業費の推移

区分	単位	18年度(実績)	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(目標)
事業費	特定					
	財源					
	国庫支出金	千円				
	県支出金	千円				
	地方債	千円				
その他	千円					
一般財源	千円	4,850	5,265	5,655	6,660	
事業費計	千円	4,850	5,265	5,655	6,660	

(4)事務事業の環境変化・住民意見等

この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？	老人福祉法第5条の規定において、地方公共団体は敬老意識の高揚と高齢福祉に対する理解を促すことが奨励されているため、平成17年度の合併時より開始した。
事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	平均寿命の伸びにより、年々支給対象者が増加している。
この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見が寄せられているか？	住民基本台帳による抽出ではなく、介護保険と同様に住所地特例者(住所要件ではなく、当町の介護保険の被保険者)の取り扱いを行うべきという意見がある。

事務事業名	敬老祝金支給事業	担当課	健康福祉課
-------	----------	-----	-------

2、評価の部(SEE) 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性	この事務事業の意図は結果(政策体系)に結びついていますか？	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある	理由	老人福祉法第5条第3項の規定により、上位施策(高齢福祉)に結びつく。
	公共関与の妥当性	なぜこの事業を町が行わなければならないのですか？税金を使って達成する目的ですか？	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある	理由	高齢者に敬意を表し長寿をたたえ、節目の年齢の方に敬老祝金を支給し該当者より喜ばれている。
	対象と意図の妥当性	対象と意図を見直す必要がありますか？対象と意図の範囲を拡大、縮小する必要がありますか？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある	理由	対象者の拡大は財政面からも不可能。また、今の現状からするとばらまき行政と見られてしまう。支給対象者の年齢を5歳刻みとかに変更することはできる。
有効性 評価	成果の向上余地	やり方や進め方を変えることで成果を向上させることができますか？	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない <input type="checkbox"/> 向上余地がある	理由	祝金を支給するだけなので、祝金を貰ったからといって長生きするかどうかは分からないので、成果向上は疑問視。
	廃止・休止の成果への影響	事務事業を廃止・休止した場合に影響はありますか？	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有り <input type="checkbox"/> 影響なし	理由	事業を廃止した場合、その時の対象者からは苦情が出ると思われる。それ以降は年々少なくなっていくと思われるが、代替りの事業があれば影響はない。
	類似事業との統廃合・連携の可能性	類似の目的や形態を持つ他の事務事業との統廃合や連携を行うことができますか？	<input type="checkbox"/> 他に手段があり、統廃合・連携できる <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段はあるが、統廃合・連携はできない	理由	類似の事業は行われていない。
効率性 評価	事業費の削減余地	成果を下げずに事業費を削減する方法はありますか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある	理由	他市町村の支給額と比較すると決して高くないので、金額の見直しは難しい。
	人件費(延べ業務時間)の削減余地	やり方を工夫して延べ業務時間を削減する方法はありますか？	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある	理由	祝金の支給は口座振込みを基本とし、口座なしは出納室窓口支給としているため、業務時間は最小限で行っている。
	公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 公平・公正である <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある	理由	節目ごとの敬老祝金であるため、受益者は偏ってしまう。

3、評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1)1次評価者としての評価結果			
目的妥当性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり	有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	公平性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり
(2)今後の事業の方向性(改革改善案)			(3)改革改善による期待効果(廃止・休止の場合は記入不要)
<input type="checkbox"/> 廃止(目的妥当性、有効性の結果) <input type="checkbox"/> 休止(目的妥当性、有効性の結果) <input checked="" type="checkbox"/> 目的再設定(目的妥当性、の結果) <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携(有効性の結果) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性の結果) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性、の結果) <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性の結果) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで改革改善をしない)			コスト
評価に基づいた改革・改善案を記入します。			削減 維持 増加
21年度の改革改善案		次年度以降の改革改善案	
		節目の年齢で支給しているが、1回目が80歳で、2回目が88歳、3回目が90歳で、4回目が99歳、そして100歳というように、年齢に偏りがあるので、5歳刻みにしたほうが分かりやすいと考える。	
(4)改革・改善(案)を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策			
今まで給付を受けた方と今後対象となる方で、不利益を被ることがないよう調査が必要。			

事務事業名	敬老祝金支給事業	担当課	健康福祉課
-------	----------	-----	-------

4、事務事業の2次評価結果

(1) 2次評価者としての評価結果

目的妥当性 適切 見直し余地あり 有効性 適切 見直し余地あり
 効率性 適切 見直し余地あり 公平性 適切 見直し余地あり

(2) 評価結果の根拠と理由

高齢者数の増加により、支給対象者も増加傾向であり、現行の基準で支給をした場合には財政負担が増加することなどから、対象を見直す必要がある。また施設入所者については、その他の方に比べ公費による援助をより多く受けていることから見直す必要がある。

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 廃止(目的妥当性、有効性の結果) | <input type="checkbox"/> 休止(目的妥当性、有効性の結果) |
| <input checked="" type="checkbox"/> 目的再設定(目的妥当性、の結果) | <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携(有効性の結果) |
| <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性の結果) | <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性、の結果) |
| <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性の結果) | <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで改革改善をしない) |

(4) 改革改善による期待効果(廃止・休止の場合は記入不要)

	コスト		
	削減	維持	増加

評価に基づいた改革・改善案を記入します。

支給対象者の見直し。

成果	向上			
	維持			
	低下			

(5) その他2次評価会議で指摘された事項

近隣市町村との比較や、長寿のお祝いであれば、前年平均寿命を超えた年齢から基準とするのはどうか。